

四半期報告書

(第46期第3四半期)

自 令和2年10月1日

至 令和2年12月31日

株式会社 松屋フーズホールディングス

目 次

頁

表 紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	1

第2 事業の状況

1 事業等のリスク	2
2 経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	2
3 経営上の重要な契約等	2

第3 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	3
(2) 新株予約権等の状況	3
(3) 行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等	3
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	3
(5) 大株主の状況	3
(6) 議決権の状況	3

2 役員の状況

4

第4 経理の状況

4

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8

2 その他

10

第二部 提出会社の保証会社等の情報

11

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	令和3年2月10日
【四半期会計期間】	第46期第3四半期（自 令和2年10月1日 至 令和2年12月31日）
【会社名】	株式会社松屋フーズホールディングス
【英訳名】	MATSUYA FOODS HOLDINGS CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 瓦葺 一利
【本店の所在の場所】	東京都武蔵野市中町1丁目14番5号
【電話番号】	0422-38-1121（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役 丹沢 紀一郎
【最寄りの連絡場所】	東京都武蔵野市中町1丁目14番5号
【電話番号】	0422-38-1121（代表）
【事務連絡者氏名】	専務取締役 丹沢 紀一郎
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第45期 第3四半期連結 累計期間	第46期 第3四半期連結 累計期間	第45期
会計期間	自平成31年4月1日 至令和元年12月31日	自令和2年4月1日 至令和2年12月31日	自平成31年4月1日 至令和2年3月31日
売上高 (千円)	79,599,343	71,130,855	106,511,113
経常利益又は経常損失(△) (千円)	4,982,027	△763,380	5,438,380
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△) (千円)	2,686,077	△1,866,932	2,604,295
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	2,681,397	△1,866,609	2,602,259
純資産額 (千円)	43,032,162	40,629,055	42,953,024
総資産額 (千円)	70,191,116	74,332,245	73,173,228
1株当たり四半期(当期)純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△) (円)	140.96	△97.97	136.66
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	61.3	54.7	58.7

回次	第45期 第3四半期連結 会計期間	第46期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自令和元年10月1日 至令和元年12月31日	自令和2年10月1日 至令和2年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	41.60	34.87

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績

当第3四半期連結累計期間は、経済活動の自粛影響に加え、行政からの営業自粛要請等、経営環境は一層厳しさを増しております。

このような環境の中で、当社グループは、新型コロナウイルス感染症対策本部を設置し、「各店舗へのアルコールの設置」「従業員の健康チェックと手洗いの徹底」「店内消毒の徹底」「マスクの着用」「換気システムによる店内の換気を常時実施」等の取組みを全国の店舗で実施し、食のインフラとしての責務を果たすべく、以下のような諸施策を推進し、業容の拡大と充実に取り組んでまいりました。

新規出店につきましては、牛めし業態22店舗、とんかつ業態7店舗、その他業態3店舗の合計32店舗を出店いたしました。一方で、直営の牛めし業態店26店舗、とんかつ業態11店舗、その他業態海外1店舗の合計38店舗につきましては撤退し、牛めし業態1店舗につきましてFC契約を解除いたしました。したがって、当第3四半期連結会計期間末の店舗数はFC店を含め、1,200店舗（うちFC5店舗、海外13店舗）となりました。この業態別内訳としては、牛めし業態958店舗、とんかつ業態195店舗、鮎業態11店舗、その他の業態36店舗となっております。

新規出店を除く設備投資につきましては、60店舗の改装（全面改装2店舗、一部改装58店舗）を実施した他、工場生産設備などに投資を行ってまいりました。

商品販売及び販売促進策につきましては、新型コロナウイルス感染症拡大によるお持ち帰り・キャッシュレス決済のニーズの高まりにあわせ、お弁当WEB予約サイト「松弁ネット」での20%還元キャンペーンやUber Eats・出前館送料無料で無料キャンペーン、PayPay支払20%還元キャンペーン等を開催いたしました。

これらの取り組みの結果、当第3四半期連結累計期間の財政状態及び経営成績は以下のとおりとなりました。

①財政状態

当第3四半期連結会計期間末における総資産は743億32百万円となり、前連結会計年度末に比べ11億59百万円増加いたしました。このうち、流動資産は226億9百万円となり、受取手形及び売掛金、原材料及び貯蔵品の減少があった一方、現金及び預金が31億56百万円増加した等によって、前連結会計年度末に比べ18億81百万円増加いたしました。また、固定資産は517億22百万円となり、繰延税金資産の増加等があった一方、減損損失の計上による有形固定資産の減少等によって、前連結会計年度末に比べ7億22百万円減少いたしました。

当第3四半期連結会計期間末における負債は337億3百万円となり、未払金、未払法人税等の支払いによる減少があった一方、借入金の増加等によって前連結会計年度末に比べ34億82百万円増加いたしました。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は406億29百万円となり、利益剰余金の減少等により前連結会計年度末に比べ23億23百万円減少となりました。自己資本比率は前連結会計年度末の58.7%から54.7%となっております。

②経営成績

売上高につきましては、新型コロナウイルス感染症の拡大等の影響を受けたことにより、前年同期比10.6%減の711億30百万円となりました。

売上高の減少により、固定費の占める割合が上昇したこと等により、売上原価につきましては、原価率が前年同期の32.8%から33.8%、販売費及び一般管理費につきましては、売上高に対する比率が前年同期の61.1%から67.5%となりました。なお、当社において重視すべき指標と認識しているFLコスト（売上原価と人件費の合計。FOODとLABORに係るコスト）の売上高比は、前年同期の66.2%から68.6%へと上昇いたしました。

以上の結果、営業損失は9億3百万円（前年同期は営業利益48億27百万円）、経常損失は7億63百万円（前年同期は経常利益49億82百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は18億66百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益26億86百万円）となりました。

なお、当社グループにおいては、飲食事業の単一セグメントであるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(2) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について、第2四半期連結会計期間において重要な変更を行っております。なお、詳細につきましては、第4【経理の状況】[注記事項]（追加情報）に記載のとおりであります。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は3百万円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 経営成績に重要な影響を与える要因

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの経営成績に重要な影響を与える要因について重要な変更はありません。

(7) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの資本の財源及び資金の流動性について重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	70,000,000
計	70,000,000

②【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在発行数(株) (令和2年12月31日)	提出日現在発行数(株) (令和3年2月10日)	上場金融商品取引所名又は登録 認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	19,063,968	19,063,968	東京証券取引所(市場第一部)	単元株式数100株
計	19,063,968	19,063,968	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

①【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

②【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総数 残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増減額 (千円)	資本準備金残高 (千円)
令和2年10月1日～ 令和2年12月31日	—	19,063,968	—	6,655,932	—	6,963,144

(5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(令和2年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

①【発行済株式】

令和2年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 7,700	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 19,039,300	190,393	—
単元未満株式	普通株式 16,968	—	—
発行済株式総数	19,063,968	—	—
総株主の議決権	—	190,393	—

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が、1,300株含まれております。

また、「議決権の数(個)」欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数13個が含まれております。

②【自己株式等】

令和2年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に対する 所有株式数の割合(%)
株式会社松屋フーズ ホールディングス	東京都武蔵野市中町1丁目14番5号	7,700	—	7,700	0.04
計	—	7,700	—	7,700	0.04

(注)当第3四半期末日現在における自己株式数は7,734株であります。

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

役職の異動

新役職名	旧役職名	氏名	異動年月日
専務取締役 財務経理部長 兼 経営企画部長 兼 内部監査部長	専務取締役 財務経理部長	丹沢 紀一郎	令和2年12月1日

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（令和2年10月1日から令和2年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（令和2年4月1日から令和2年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和2年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和2年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	11,743,917	14,900,094
受取手形及び売掛金	2,190,912	2,057,908
商品及び製品	651,501	857,340
原材料及び貯蔵品	3,723,945	3,544,707
その他	2,417,590	1,249,718
流動資産合計	20,727,867	22,609,768
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	17,936,182	19,606,084
機械装置及び運搬具（純額）	1,959,668	2,724,789
工具、器具及び備品（純額）	2,228,469	2,299,441
リース資産（純額）	835,033	667,301
土地	9,341,954	9,341,954
建設仮勘定	3,948,174	185,209
有形固定資産合計	36,249,483	34,824,780
無形固定資産		
ソフトウェア	221,877	405,017
その他	183,216	39,771
無形固定資産合計	405,094	444,788
投資その他の資産		
投資有価証券	71,994	71,785
敷金及び保証金	12,349,260	12,075,478
長期前払費用	434,551	392,092
店舗賃借仮勘定	※1 223,864	※1 111,886
繰延税金資産	1,713,211	2,812,585
投資不動産（純額）	194,987	189,992
その他	812,647	808,689
貸倒引当金	△9,734	△9,603
投資その他の資産合計	15,790,782	16,452,907
固定資産合計	52,445,360	51,722,477
資産合計	73,173,228	74,332,245

(単位：千円)

	前連結会計年度 (令和2年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (令和2年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	2,195,727	2,134,705
短期借入金	86,552	4,184,087
1年内返済予定の長期借入金	2,276,884	3,384,052
未払金	5,795,497	4,046,585
リース債務	420,290	269,840
未払法人税等	1,535,794	258,356
賞与引当金	984,427	678,075
役員賞与引当金	—	669
資産除去債務	—	11,663
その他	3,472,693	902,199
流動負債合計	16,767,867	15,870,234
固定負債		
長期借入金	10,628,816	14,988,684
役員退職慰労引当金	567,800	567,800
リース債務	482,950	455,025
資産除去債務	1,602,225	1,657,938
繰延税金負債	3,948	4,786
その他	166,595	158,720
固定負債合計	13,452,336	17,832,955
負債合計	30,220,203	33,703,190
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,655,932	6,655,932
資本剰余金	6,963,144	6,963,229
利益剰余金	29,418,516	27,094,234
自己株式	△16,461	△16,555
株主資本合計	43,021,131	40,696,840
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	832	687
為替換算調整勘定	△68,939	△68,472
その他の包括利益累計額合計	△68,107	△67,784
純資産合計	42,953,024	40,629,055
負債純資産合計	73,173,228	74,332,245

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自令和2年4月1日 至令和2年12月31日)
売上高	79,599,343	71,130,855
売上原価	26,108,785	24,024,170
売上総利益	53,490,557	47,106,684
販売費及び一般管理費	48,662,772	48,010,632
営業利益又は営業損失(△)	4,827,784	△903,947
営業外収益		
受取利息	15,971	13,943
受取配当金	1,587	1,575
受取賃貸料	168,278	145,658
その他	194,942	246,376
営業外収益合計	380,778	407,552
営業外費用		
支払利息	38,558	64,243
賃貸費用	165,440	147,639
その他	22,537	55,101
営業外費用合計	226,536	266,984
経常利益又は経常損失(△)	4,982,027	△763,380
特別利益		
固定資産売却益	723	1,811
受取補償金	—	30,909
収用補償金	105,236	70,475
その他	4,477	13,953
特別利益合計	110,437	117,149
特別損失		
固定資産除却損	9,502	9,447
店舗閉鎖損失	2,574	41,712
固定資産売却損	1,460	458
減損損失	239,857	1,653,907
その他	—	150
特別損失合計	253,395	1,705,675
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	4,839,069	△2,351,906
法人税、住民税及び事業税	1,955,285	613,497
法人税等調整額	197,707	△1,098,472
法人税等合計	2,152,992	△484,974
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,686,077	△1,866,932
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	2,686,077	△1,866,932

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自令和2年4月1日 至令和2年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	2,686,077	△1,866,932
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	927	△144
為替換算調整勘定	△5,607	467
その他の包括利益合計	△4,679	322
四半期包括利益	2,681,397	△1,866,609
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,681,397	△1,866,609
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

【注記事項】

(追加情報)

(会計上の見積りの不確実性に関する事項について)

新型コロナウイルス感染症の影響は現在も続いており、令和2年5月25日の政府による緊急事態宣言解除後、売上高は緩やかな回復傾向にあったものの、再度の緊急事態宣言が令和3年1月7日に発出される等、依然として今後の先行きは不透明な状況にあり、新型コロナウイルス感染症発生前の売上高水準への回復には、当初の見込みよりも時間を要すると判断し、翌連結会計年度末にかけて徐々に収束に向かう仮定に、前連結会計年度の有価証券報告書に記載した会計上の見積りにおける仮定を変更しております。

一方で、新型コロナウイルス感染症回避のための取り組み強化、新商品の販売等の販売促進活動の強化による店内売上高の回復、及びテイクアウト需要に対応したお弁当販売の強化により、売上高の回復を目指すとともに、コスト構造改革を推し進め、改善を図っております。

当社グループは、固定資産の減損損失の算定等の会計上の見積りにおいて、上述の仮定を基に見積りを行っております。

(四半期連結貸借対照表関係)

※1 主に新店出店のための敷金及び保証金等で開店前の店舗に関するもの、並びにこれらと同様の取引で店舗事務所等に関するものであります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結結果計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結結果計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結結果計期間 (自 平成31年4月1日 至 令和元年12月31日)	当第3四半期連結結果計期間 (自 令和2年4月1日 至 令和2年12月31日)
	千円	千円
減価償却費	2,851,718	3,060,598

(株主資本等関係)

I 前第3四半期連結結果計期間(自 平成31年4月1日 至 令和元年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
令和元年6月25日 定時株主総会	普通株式	228,675	12	平成31年3月31日	令和元年6月26日	利益剰余金
令和元年10月31日 取締役会	普通株式	228,675	12	令和元年9月30日	令和元年12月10日	利益剰余金

II 当第3四半期連結結果計期間(自 令和2年4月1日 至 令和2年12月31日)

配当に関する事項

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
令和2年6月29日 定時株主総会	普通株式	228,674	12	令和2年3月31日	令和2年6月30日	利益剰余金
令和2年11月4日 取締役会	普通株式	228,674	12	令和2年9月30日	令和2年12月8日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結結果計期間(自平成31年4月1日 至令和元年12月31日)及び当第3四半期連結結果計期間(自令和2年4月1日 至令和2年12月31日)

当社グループにおいては、飲食事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成31年4月1日 至令和元年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自令和2年4月1日 至令和2年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額(△)	140円96銭	△97円97銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△)(千円)	2,686,077	△1,866,932
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額又は親会社株主に帰属する四半期純損失金額(△)(千円)	2,686,077	△1,866,932
普通株式の期中平均株式数(千株)	19,056	19,056

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

令和2年11月4日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 中間配当による配当金の総額……………228,674千円

(ロ) 1株当たりの配当金額……………12円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日……………令和2年12月8日

(注) 令和2年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払を行っております。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

令和3年2月9日

株式会社松屋フーズホールディングス

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ
東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 鈴木 泰司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 萬 政 広 印

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社松屋フーズホールディングスの令和2年4月1日から令和3年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（令和2年10月1日から令和2年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（令和2年4月1日から令和2年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社松屋フーズホールディングス及び連結子会社の令和2年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。